認定医審査ポスター1

2023年6月16日(金) 12:00 ～ 13:30 ポスター会場 (1階　G3)

[認定P-1]誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者が外来から訪問診療へ移行し多職種連携により栄養状態を回復した症例

〇山田 一子[1]、佐藤 二男[1]、高橋 三太[1]、鈴木 寿子[1]、田中 五郎[1]、加藤 六助[1] (1. 梅田歯科大学高齢者歯科学講座)

【緒言・目的】

摂食嚥下障害患者の対応においてチーム医療の重要性が提唱されて久しい。今回，誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者に対して外来診療から訪問診療へ移行し多職種連携により栄養状態が向上した 1 例を経験したので報告する。

【症例および経過】

83 歳，男性。統合失調症，脳梗塞，心筋梗塞の既往あり。2015 年 9 月に誤嚥性肺炎にて入院し，12 月に嚥下機能検査を希望し当科外来受診。嚥下機能評価により咽頭収縮不良，嚥下反射遅延が観察され，水分のとろみ付の指導を行ったが高齢夫婦のみの世帯であり外来での指導内容のコンプライアンスに問題があった。その後，＊＊＊＊＊＊＊＊＊行った。食形態は，実際の手料理を用いて調整法の指導を行い，ケアマネジャーを介し，とろみ付の確認をした。

なお，本報告の発表について患者本人から文書による同意を得ている。

【考察】

２カ月で食形態が改善した。体重も増加した。痰の吸引回数減少の報告があり，訪問看護師より肺の捻髪音消失， ST よりブローイング，ハッフィングの習得と実施の報告があった。本症例では訪問診療へ移行した事により，高齢のキーパーソンだけでなく多職種との連携により指導内容の理解度を確認出来た事と実際の食事風景が観察出来た事が，栄養状態や食形態の向上につながったと考えられる。高齢者にとって外来診療か訪問診療かを都度検討することも重要であると考えた。

（ COI 開示：老年株式会社，その他２社）または（ COI 開示：なし）

（〇〇大学 倫理審査委員会承認番号 9999-22）または（〇〇大学歯学研究科倫理審査委員会より付議不要の返答があった）または（倫理審査対象外）

©一般社団法人 日本老年歯科医学会